

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902363		
法人名	有限会社 スマイルプラン		
事業所名	グループホーム プランタン永山		
所在地	旭川市永山11条2丁目2-2 (電話) 0166-24-5201		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年11月19日	評価確定日	平成20年1月17日

【情報提供票より】 (19年11月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 15 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤8人, 非常勤10人, 常勤換算6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	RC造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000円	その他の経費(月額)	暖房費 8,000円
敷金	有()円 <input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円 <input checked="" type="radio"/> 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18名	男性 7名	女性 11名
要介護1	2名	要介護2	5名
要介護3	4名	要介護4	6名
要介護5	1名	要支援2	2名
年齢	平均 82.5歳	最低 67歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	旭川ペイントクリニック・東郷整形外科・林歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年に開設し2年が経過したグループホームである。玄関、事務室を経て明るく開放的なダイニング兼リビングに続き共用空間と居室が使いやすくなっている。管理者はホームの設立準備に携わり開設後は介護職員としてチームケアの推進に務めたが、大幅な異動に伴い再度管理者に就任した。開設時より続いたトップダウン的な運営を反省し、職員の主体性を大切に見守りを徹底した寄り添い介護の実践など改革に努め、成果とともに事業所運営は安定期を迎えている。反面、介護保険法の改定に伴う地域密着型サービスとしての理念策定を基本にした諸般の取り組みが遅れているが、法人と連携を図りながら前向きな姿勢で利用者本位の取り組みに着手している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>10項目の改善課題は、職員ミーティングで話し合い、6項目が改善された。ホームの啓発活動・地域との交流・外出行事などは、地域密着型サービスとしての理念の具現化を視念に具体的な展開を期待する。改善課題は計画・実践・評価のサイクルを大切にしたい取り組みが望まれる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員の負担軽減を考え管理者、介護支援専門員など3名により行なった。経験差や習熟度を克服しチームケアの実践を行っており、全職員による自己評価を通して意識合わせや見直し振り返りを行ない、サービスの質の改善、向上につなげることが望まれる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>管理者は、運営推進会議のねらいや役割について理解しているが現時点では未開催である。系列事業所とも話し合いを行ない会議場所が確保され事業所としての人選も進んでおり、年度内の開催を目指し調整中である。運営推進会議は、地域の理解と協力を得る貴重な機関であり、事業所の地域に開かれた運営とサービスの質向上を図る機会でもある。早期の開催と本来の目的に向かって軌道に乗せることを期待する。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書には事業所と公的機関の窓口を掲げ、玄関入口には「ご意見箱」を設置している。苦情相談があった場合は内容を全職員が共有し改善に努めている。なお、意見、苦情を外部者に安心して表せる場面作りとして、家族会と運営推進会議を年度内に組織し開催予定である。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会には未加入であるが、町内会長が来訪し敬老会への招待を受け出席している。また事業所としては、開設一周年を記念し家族、系列事業所、近隣住民を招き祭りを開催したが、交流はその時かぎりでの日常的な交流の関係はできていない。地域の一員として町内会に加入し、事業所と地域の双方向的な関係作りが望まれる。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	17年の開業時に掲げた理念をもとに、日々の業務の中で具現化・実践化の取り組みが行われている。地域密着型サービスとしての事業所独自の理念は未策定である。	○	現理念に加えて、地域密着型サービスとしての事業所の役割を検討し、利用者の地域生活を支える理念・方針・目標を明確にしたサービスの提供が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のケアサービスに関する計画や実践に対する管理者への報告・連絡・相談には都度適格になされ、その度に理念の具現化に視点をあて指導が行なわれている。理念共有化の体制はできている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には未加入であるが、町内会長は度々来訪し敬老会への招待を受けている。また、事業所としては、開設一周年を記念し隣接住民を招き祭りを開催したが、事業所と地域住民の日常的交流の関係はできていない。	○	地域の一員として町内会に加入し、事業所と地域住民との関係強化を図るとともに、行事、活動、役割などを通じた双方向的な関係作りが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の負担軽減を考え、管理者や介護支援専門員など3名により行なった。外部評価の改善点はミーティングで話し合いをし、全職員で取り組んでいる。	○	経験差や習熟度を克服し、チームケアの実践を行っており、全職員による自己評価を通して、意識合わせや見直し、振り返りを行ない、サービスの質改善、向上につなげることが望まれる。

旭川市 グループホーム プランタン永山

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は、運営推進会議のねらいや役割について理解しているが現地点では未開催である。系列事業所とも話し合いを行ない会議場所が確保され、事業所としての人選も進んでおり、開催の見通しが立っている。	○	運営推進会議は、地域の理念と協力を得る貴重な機会であり、開かれた事業所の運営とサービスの質向上を図る機会でもある。早期の開催と本来の目標に向かって軌道に乗せることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員が毎週来訪し、情報提供や学習会の案内を始め、種々の相談をもとに助言を受けている。また、介護支援専門員は毎月定期的に市担当者を訪ね、事業所の状況を報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	多くの家族は毎週来訪している。来訪時には利用者の暮らしぶりや健康状態を中心に報告している。預り金の明細は、利用者ご家族の方へのお手紙に生活状況やホームの様子を書き、頂り金出納帳の写しを同封報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には、内部と外部の苦情相談窓口を記載し、玄関入口に「ご意見箱」を設置している。苦情に対しては全職員が共有し改善に努めている。なお、家族の意見交換の場面作りとして、家族会、運営推進会議を考へ年度内には組織し開催予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動を最小限に抑えるため、悩み・不安・責任感などについて相談相手になり信念を持って仕事ができるよう日常的に会話を大切にしている。やむなき異動の場合は職員間でチームを編成し、業務の持続性と利用者のダメージ緩和の取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修費の予算計上はなされておらずスキルアップを図る計画的な研修体制は確立していないが、必要な研修会への参加を奨励し参加後はレポートを作成して全職員が共有する体制を作っている。なお、管理者はサービスの質的向上を図るために研修の大切さを理解し、そのための方策を検討している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターとの連携をもとに、地域で開催する各種研修会に出席し学習、交流を行なっている。プランタングループの定例会合には管理者が出席し、各ホームの実情交流を通してサービスの質向上に向けた協働体制を取っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の相談があった時点で管理者が訪問調査を行ない、本人、家族に見学を案内し来訪を呼びかけている。緊急措置的にならぬよう入居時には家族に宿泊を勧めるとともに、生活観察を記録に納め全職員が共有し支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者とともに過ごし常に寄り添う介護を実践している。利用者の得意とする分野で力を発揮して頂き教えと励ましを受け、感謝と支え合い、分かち合いの関係性を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員は利用者の思いや願いに関心ごとに注意を払い把握に努めている。把握した内容はカンファレンスで利用者本位に検討し、共有を図り、利用者との生活の中で思いや意向に即した話し掛をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なサービス担当者会議開催や、状況に合わせたカンファレンスは行なわれている。しかし、介護計画は利用者と家族を交えて話し合い、介護支援専門員と職員が共同で作成されることが望ましいが、経験の浅い職員も多くチームでの作成には至っていない。	○	職員と利用者との寄り添うケアは見られる。日頃のケアの中で気づきや思い、発見があることを発言されており、今後は職員とともに課題分析やケアのあり方について話し合い、共同作業でケアプラン作成ができるように期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、定期的に行なわれ、現状に即した見直しを職員と話し合い、介護支援専門員が中心となり作成されている。また、状況に変化があるときは、都度変更が行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の入居、退居時を始め掛け付け医の受診は家族対応を原則としているが、家族の状況に応じて柔軟に送迎支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による定期的な受診のほかに看護師を設置し、日常的な健康管理体制ができている。一部の利用者は家族の希望により掛り付け医を変更したが、残る利用者は従来通りの掛り付け医の受診を受け、事業所が情報交換を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制の指定を受けているが、重度化、終末期の対応指針は作成されておらず、入居時から状況変化に応じた家族との段階的な話し合いは行なわれていない。	○	事業所としての基本方針は持っているが文書化が遅れている。年度内には作成の予定であるが、一日でも早く作成し本人・家族・医療機関を支えて方針の共有を図ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の呼び方や声掛けは、プライドやプライバシーを損ねないように注意している。記録はカードインデックスに納めケアプランは施錠付き引き出しに保管するなど、プライバシー保護の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活に対する基本となる流れはあるが、その日その時の利用者の状況に応じて、個別化を大切に柔軟に対応し支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は刃物を使わない調理を担当し、職員とともに調理に携っている。職員の中に調理師がおり、利用者の嗜好を大切に食事の提供が行なわれている。職員と一緒に食事を取っていないが、常に食卓の横に立ち見守りと声掛けをし、寄り添い介助を行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回9時30分～14時の間で利用者の希望に応じて入浴している。ホームには大小2つの浴室があり、大きい浴室は夫婦の利用者が一緒に入るなど、利用者の希望を取り入れ入浴ができるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や力を踏まえ場面作りを通して掃除、植木の世話や食事作りを自己の役割として行なっている。利用者の多くはリビングに集まり共同生活を楽しんでいる。バスを利用し雪祭り、花見に出掛けるなど気晴らし支援も行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の日常的な外出支援は少なく家族同行を原則にしている。交通量の多い事業所前道路に平行しガーデニングフェンスを張り、利用者の意志でホーム内外を行ききできる憩いスペースを設け、気分転換、五感刺激を得られる工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は交通量の多い道路に面しているため、利用者の生命を守る使命感からユニット入口は施錠しているが、憩いスペースを設け日中の一定時間は開錠し、ホーム内外を行きし、自由な暮らしができるよう支援している。	○	管理者は、施錠のない自由な暮らしの大切さを理解しているとともに、利用者の生命を守る使命感を持っている。施錠のない自由な暮らしのための必要事項を検討中であり、早期の解決を期待する。

旭川市 グループホーム プランタン永山

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の支援、指導のもとで年2回避難訓練を実施するとともに、火災を発生させない日常的に管理の徹底が行われている。	○	利用者の生命を守る使命感に立ち、地域密着型サービスの枠組みを活かし、消防署、警察、地域住民が一体となった協力体制を整備し、さまざまな条件下を想定した実践的訓練が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に調理師の有資格者がおり利用者本位の食事の提供が行なわれている。食事、水分の摂取量は記録し全職員が共有している。協力医療機関と連携し栄養の専門的チェックを受ける予定である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ステーションを中心に対称的な2つのユニットは共に明るく開放的であり、ダイニングから共用空間と居室が使いやすく配置されている。刺激的な音や光はなく季節に合った装飾品や置物とキッチンから漂う調理の音や香りなど、季節感や生活感を採り入れた居心地よい共用空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた馴染の家具を初め日用品や食器類などを持ち込み、思い出の写真や装飾品を飾り、その人らしく安心して過ごせる居室になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。